



ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)
**環境にも人にも
 やさしい屋上緑化**

JR立川駅に直結するビル・ルミネ立川店に完成した屋上緑化施設「空庭」。緑の芝は、踏みしめるだけで癒されてしまうほどの気持ちよさがある。環境へのメリットも大きく、温暖化防止対策としても期待されている。

「空庭」は、「そらにわ」と読む。フットサル競技場を計画していた(株)ジェイアール東日本スポーツ、屋上を活性化させたい(株)ルミネ立川店、そして屋上緑化事業を進めてきたジェイアール東日本コンサルタンツ(JRC)の3社の協力により完成した癒しの空中空間である。

構造は、屋上のコンクリートの上に防根シート、土、芝を重ねたシンプルなもの。土は、中国の標高3,500mの高地で採掘された泥炭を原料とする「ルーフソイル」。水はけがよいと同時に、水もちもよく、ほどよい酸度があるため病原菌の増殖を防ぐ効果がある。屋上緑化には最低厚さ15cmの土が必要だが、ルーフソイルならば7cm程度で植栽が可能。大幅なコストダウンにもつながった。「長い目で見れば、効果は計り知れない」とJRCの加藤直人は語る。



ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)
 企画部新規事業開発室課長代理
 (現: JR東日本水戸支社営業部事業課)
加藤 直人

「都心のビルの屋上緑化を進めたいですね。駅ビルに限らず、マンションや多目的ビルにももっと広がってほしいと思っています」

軽量で水はけがよく、かつ水もちもよい有機泥炭「ルーフソイル」を活用



JR立川駅に隣接するルミネ立川

「CO₂を吸収するので、地球温暖化防止に効果があります。そのほか、都市のヒートアイランド現象の抑制、冷暖房に関わる省エネルギー、建物の長寿命化、集客、ヒーリング(癒し)効果など、屋上緑化は環境、経済、人全ての面でメリットのある取り組みです」。

JRCはこれまで、設計を含んだ鉄道に関するトータルな技術コンサルティングを手がけてきた。現在新規事業としてITとともに力を入れている分野が環境対策で、屋上緑化はその一環。めざしているのは「環境にも人にもやさしい駅」の実現である。

同時に「屋上緑化の可能性は、駅ビルだけに限らない」と加藤は言う。これまで東京都内の駅ビルや社屋を対象に、5件の屋上緑化施設を設置。今後は、JR東京総合病院などにも設置することが決まった。

「単なる緑化だけでなく、お客さまに野菜づくりのスペースを提供する菜園事業など、屋上緑化はさまざまな用途に活用できます。これからもさらに可能性を広げていきたいと考えています」。



JRCの屋上緑化ビジネスにおいて第一号となった、JR東日本新宿南部現業事務所の屋上緑化



ルミネ立川店屋上緑化施設「空庭」は2005年3月に完成した。面積は約130m²